

子ども理解と指導の省察に向けた担任教師間の 相互コンサルテーションの開発と導入

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 生徒指導・教育相談系

中川 明

本研究は、子ども理解および指導省察のためのツールを組み込んだ組織的な担任支援システムとして、「コア・システムと PF チームの支援」を基盤とした相互コンサルテーションを開発すること、および、相互コンサルテーションの導入による担任の子ども理解が、担任の指導の省察および改善にどのように効果がみられるかを、ツール分析とコンサルテーション過程の内容分析から検討することを目的とした。4 年～6 年の学級担任の 3 名を参加者とし、1 名をコンサルティ、残りの 2 名をコンサルタントとし、ローテーションを行い、参加者全員がコンサルテーションを受けられるようにした。PF チームを教育相談担当、養護教諭、SC とした。

結果から、相互コンサルテーションの効果は、ツールの導入とコンサルタントおよび PF チームの問いかけが、教師の理解とは異なる視点を提供して、担任の児童理解の揺らぎをもたらすことで、省察と改善を促す働きを持つことと解釈された。加えて、担任教師の中に元々あった考えを具体化し、実践の不安と葛藤の解消の役割を果たす働きと、課題の解決策の検討をコンサルティに促して指導の省察と改善のサイクルを生み出す働きを持つことと解釈された。